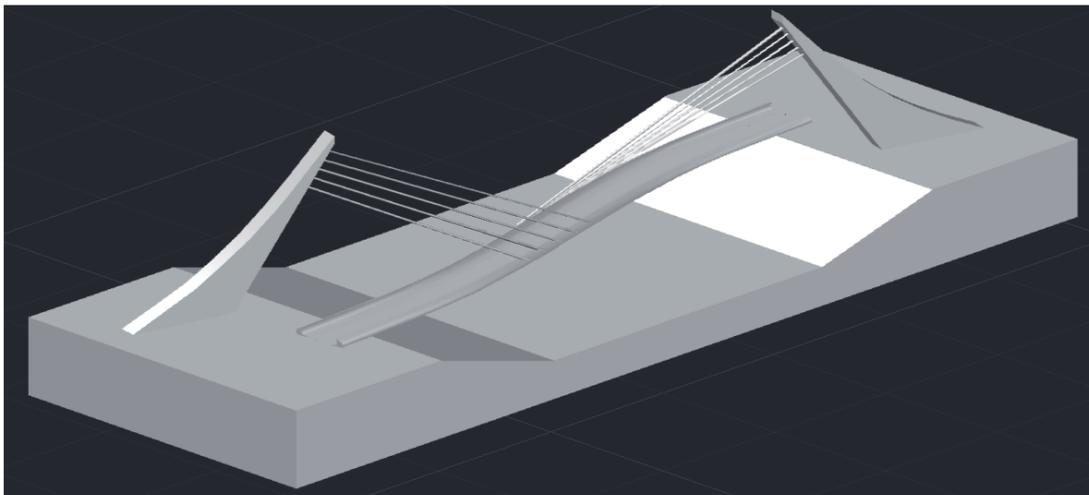
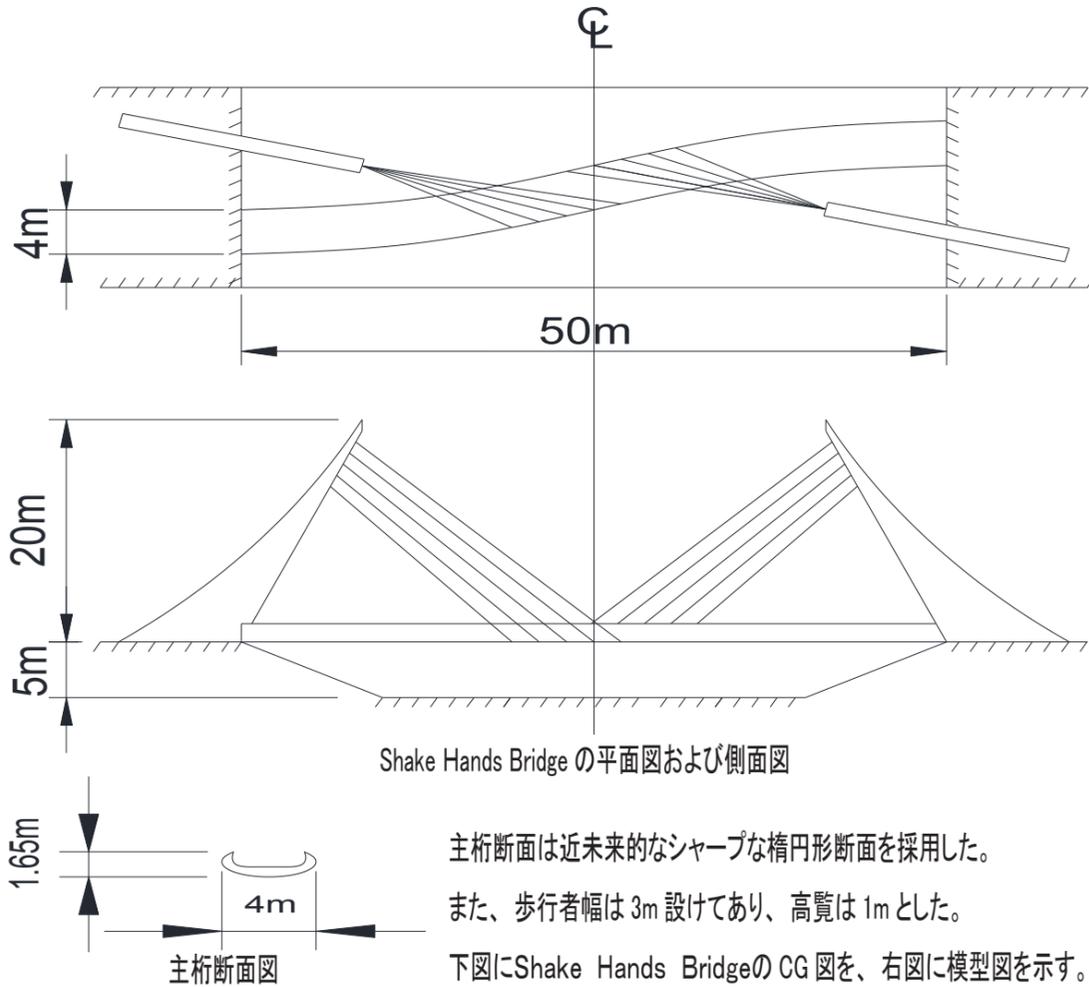
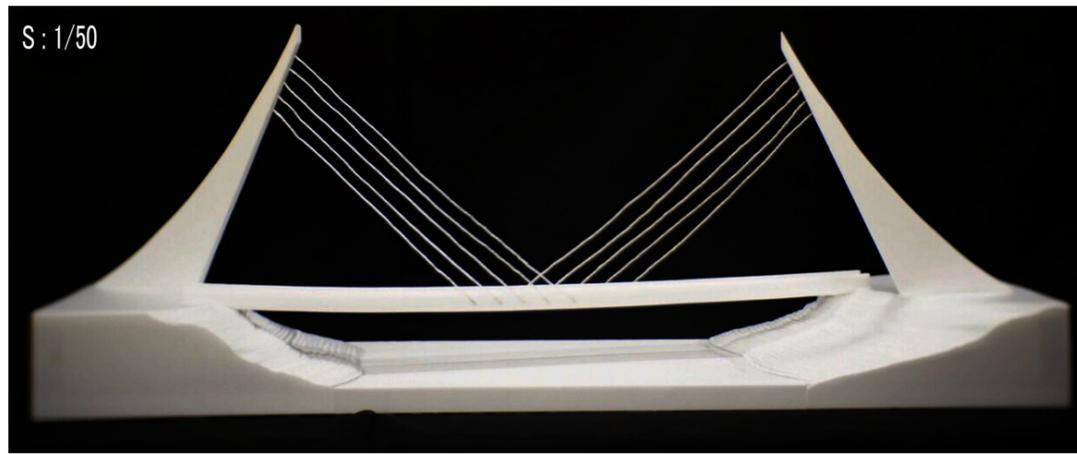


# Shake Hands Bridge

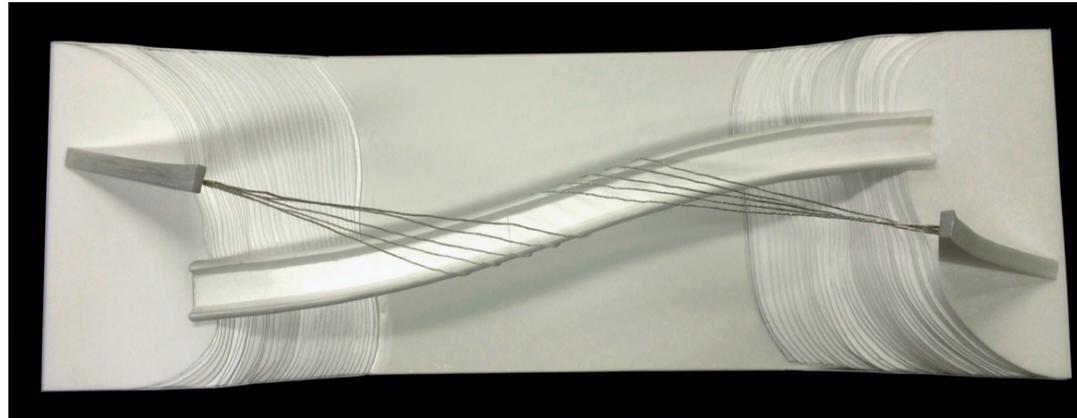
- ・ 橋梁名 : Shake Hands Bridge
- ・ 橋の種類 : 歩行者専用・鋼斜張橋
- ・ 主桁 : 支間長 50m、幅 4m の S 字カーブ鋼桁
- ・ 主塔 : 高さ 20m、幅 1.25m の鋼製主塔



Shake Hands Bridge の CG 図



2本の塔は、日本刀の形をイメージした。海外から見た日本のイメージでよく言われる侍から連想したものである。また、オリンピックではあらゆるスポーツで競い合われることから、決闘（試合）を象徴した塔である。



主塔から5本のケーブルが主桁をねじるように吊っている。上空から見るとケーブルがまるで人の手のようにお互いが握手している様（Shake Hands）に見えることから、この橋の名前を Shake Hands Bridge と名付けた。また、この握手は決闘（試合）後のお互いの健闘を讃え合う様子を象徴とし、スポーツマンシップには欠かせない行為をも示す。

構造的には、主桁に S 字カーブ鋼桁を採用したため歩行者が利用した時にねじりが生じる可能性が考えられた。そこで、そのねじりを抑制するために主塔の反対側の主桁をケーブルで吊っている。5本のケーブルは、五輪（オリンピックを象徴とする5つの輪）を連想する本数でもある。



架設場所としては、東京は列車が多く利用されるため駅と東京オリンピックのメイン会場（オリンピックスタジアム）へ繋がる歩道橋をイメージしている。歩道橋下は 5m の高さを設けてあり、自動車はもちろん歩行者も通ることが可能である。この橋は、オリンピックに訪れる世界中の人々を握手で歓迎することでお互いの架け橋となるような願いを込めている。

